

2016年度貧困・格差学習会 **子どもの貧困と地域の課題**

日時:2017年2月3日(金)

13:00~15:45

会場:東京都生活協同組合連合会

講師:加藤 彰彦 氏

秋生 修一郎 氏

参加人数:60名

主催:東京都生協連

平和活動担当者連絡会

“2016年度貧困・格差学習会”では、“子どもの貧困問題”に関して学習しました。当日は基調講演と地域の課題に視点を置き、地域の“子どもの貧困”の実態を知り、“子どもたち一人ひとりが住みやすい地域づくり”を課題に取り組むことを学びました。

開催挨拶

日本の人口は戦後8000万人台まで減少し、2010年にピークを迎えて以降、2055年には8000万人台まで再び減少することが予測されています。現在の人口減少は少子高齢化を原因としたものであり、今までの地域社会の在り方が大きく変わってまいります。本日の“子どもの貧困問題”も重要な地域課題として、みなさんと一緒に取り組んでいきたいと思っております。



挨拶

竹内誠 専務理事
(東京都生協連)



司会

佐藤奈穂美さん
(パルシステム東京)

基調講演

講演テーマ: 貧困児童 ~子どもの貧困からの脱出~

講師: 沖縄大学名誉教授 加藤彰彦氏



講師

加藤彰彦氏
(沖縄大学名誉教授)

【貧困問題を考える視点】

貧困問題を考える視点として重要なことは、貧困を「絶対的貧困」と「相対的貧困」に分けることです。近年社会問題化した「貧困問題」は“低所得などを要因に、社会の一員として生きづらい状況”になる「相対的貧困」と言えます。この「相対的貧困」に陥ると、人との関わりが出来なくなり、地域や血縁等の人間関係から孤立してしまいます。こうした状況は、親から子どもに世代間で引き継がれ「貧困の連鎖」となって顕在化します。

【子どもの貧困からの脱出】

子どもの貧困とは「子どもの権利条約」の内容を否定された状態であると捉えることが大切です。そのうえで、子どもの貧困対策として考えられるのは、“高等学校までの完全無償化”、“知育教育の偏重を改め、生活・暮らしに必要な教育の復活”、“地域の人々と協力したコミュニティスクールを作ること”、“一人のひともし排除しない協同社会の建設に向けた活動を始めること”などが必要となります。

“子どもの権利条約”

1. 生きる権利
(健やかに成長する権利)
2. 守られる権利
(差別・虐待・搾取から守られる権利)
3. 育つ権利
(自分らしく成長する権利)
4. 参加する権利
(自由に発言・ルールを守り活動する権利)

■お話を聞いて(参加者の声)

- ・“子どもの貧困”が子供の成長に大きな影響を与えているということが分かりました。親も疲弊している様子で、社会が子供を支えていかなければいけないと感じました。“生きる力”を育てられるようにしていきたいです。
- ・地域で貧困世帯を孤立させないことが大切だと感じました。
- ・沖縄の自然や人間関係の豊かさを知り、子どもの生きやすさを進めて行くうえで、その大切さが実感できました。



地域の課題

講演テーマ：「未来へつなぐあだちプロジェクト～足立区の子どもの貧困対策～」
講師：足立区政策経営部 子どもの貧困対策担当部長 秋生修一郎氏



講師

秋生修一郎氏
足立区政策経営部
子どもの貧困対策担当部長

【固定化するマイナスのイメージの払拭】

足立区に対する他の自治体から見たマイナスイメージを払拭するために、4つのボトルネックの課題を設定しました。治安・学力・健康の3つの問題の根底にあり共通原因である「貧困の連鎖」を断ち、次代を担う子どもを支援する取り組みをすすめています。

4つのボトルネック的課題

(=克服しない限り区内外から正当な評価が得られない根本的課題)

治安

・刑法犯認知件数が23区ワースト1
・「美しいまちは安全なまち」を合言葉に、「ビューティフル・ウィンドウズ運動」に取り組む

学力

・小・中学校の学力テスト結果 23区で低位
・基礎学力の定着を目指した取組み

健康

・区民の健康寿命が都平均より2歳短い
・総花的な健康対策から、糖尿病対策に特化

貧困の連鎖

・生活保護・就学援助受給者が多く、貧困が子どもたちに“連鎖”

【足立区での取り組みの視点】

足立区の「子どもの貧困対策」は「救貧」ではなく「防貧」として取り組みます。親の知識や体験の枠から、子どもたちが抜け出せない現状を踏まえ、親に対する取り組みだけではなく、直接的に子どもたちに働きかけることが重要です。この働きかけとは「子どもたちに生き抜く力」を身につけさせる取り組みを実行することです。

■たとえば・・・

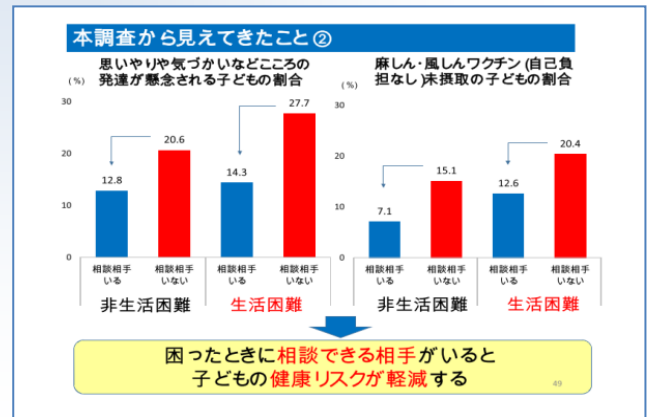
小学校の歯科健診で「虫歯あり」との判定を受けた後、歯科医の治療費が無料であるにも関わらず未処置のままの子どもがいます。この場合、親が「乳歯だから治療しなくても大丈夫」との認識を持っており、実際に歯科医で治療を受けさせていないのです。だからこそ、親に対する働きかけと同時に、子どもに対する働きかけが重要なのです。

【子どもの居場所づくり】

地域の中における“子どもの居場所づくり”は自治体だけではなく、多くの人たちに関わってもらいたいと思います。皆さんが活動を始める際には、その活動を長く続けることを大切に、子どもたちとの信頼関係を深めて欲しいと思います。

【地域での子育て】

みなさんには“地域で地域の子どもの育ててほしい”とお願いしたいと思います。“ご近所で声を掛けてください”、“子どもたちを誉めてあげてください”、“子どもたちに大人が地域でいきいき活動している姿を見せてあげてください”と思います。



足立区「子どもの健康・生活実態調査」の結果より

■お話を聞いて(参加者の声)

- ・自治体の方からお話を聞く機会が無かったのでとても良い機会でした。大学で「特別区における教育機会の不平等」について足立区の現状と対策を調べたことがありました。その際、他の自治体よりも「貧困対策」が進んでいるという印象を受けました。
- ・足立区で教員をしていた経験があり、クラスの中で母子家庭や生活保護を受給している生徒が必ず何人かいました。今から思えば、その子供たちの受けていた差別や苦しみが本当に理解出来ていなかったように思いました。どんな子供たちも生まれた家庭や環境で差別されたり苦しんだりしない行政対応を切に望みます。

グループワーク

わずかな時間でしたが、加藤さん、秋生さんにもグループワークに参加していただきました。地域で子ども食堂に参加している方、これから何か出来ないかと模索している方などと活発な意見交換がされ、大変に有意義な時間となりました。

